

第10回経営改善委員会 議事概要

1. 日 時 令和6年5月30日(木) 14時00分～16時05分
2. 場 所 JR北海道本社 会議室
(※の出席者はWEB会議形式で参加)
3. 出席者
 - (1) 委 員 片野坂真哉委員長、知野雅彦委員(※)、友定聖二委員、石井吉春委員、檜森聖一委員、上浦正樹委員
 - (2) オブザーバー 国土交通省 岡野まさ子鉄道局審議官
国土交通省鉄道局鉄道事業課 山崎雅生課長
国土交通省北海道運輸局 井上健二局長
鉄道・運輸機構 伊地知英己経営自立推進統括役
 - (3) JR北海道 島田修会長、綿貫泰之社長、今井政人副社長、宮越宏幸常務、萩原国彦常務、島村昭志取締役、川戸俊美取締役、島津勝一取締役

4. 議事概要

(1) 中期計画2023の検証について

「中期計画2023の検証」について議論した。

委員より以下のご意見があった。

- コロナ禍の中、経営のテーマに取り組んだ成果が数値になって表れている。
- 会社に取り組んできた安全についてもしっかりと堅持されている。
- 小売りの需要の伸びがほかのJRに比べて弱く、工夫が必要である。
- 不動産開発に力を入れるほか、更なる開発事業の検討が必要である。

委員からのご意見に対して、会社から次の説明を行った。

- ◆ 小売りについて、JR東日本等と情報交換を行いつつ、打てる対策を実施する。
- ◆ 駅ビルだけではなくメタバース等バーチャル空間でのショッピング販売等の検討を進めていく。

(2) 今後の課題 「中期計画2026のKGI・KPI設定」「人材の確保」

「中期計画2026のKGI・KPI設定」及び「人材の確保」について議論した。

委員より以下のご意見があった。

- 新規ビジネスについて、本腰を入れて行うためには他社との提携を検討すべきである。
- カーボンニュートラルの分野で新しい取り組みをすることで社会的な関心が集まり、社員にとってのモチベーションに繋がる。
- DX、データの活用について、AIを有効に活用するためにデータの蓄積が重要であり総括的に戦略・計画をもち進めるべきである。
- 社員が定着するよう処遇を高めることで採用の競争力に繋げるべきである。

- 社員のやる気を引き出すような大きなビジョン、メッセージを掲げるべきである。
- 人材は日本中の企業の共通のテーマであり、「安全」、「財務基盤」、「人的資本」の三本柱の一つとして発信することが重要である。

委員からのご意見に対して、会社から次の説明を行った。

- ◆ 新規ビジネスについては、オープンイノベーション手法の活用により他企業の知見や力を借りて展開していくことも含めて取り組みを進める。
- ◆ カーボンニュートラルについては、中期計画期間では高効率の電車の導入、登別駅での太陽光発電による電灯電力への活用等に取り組むとともに、将来的な抜本策として新技術の活用の検討を進める。
- ◆ AIの活用では営業関係のデータを蓄積することで最適な割引率の設定への活用や、工務においては検査業務等でデータを蓄積し活用を進める。
- ◆ 経営体力を考慮して、技能手当や初任給などへ振り向けるといった工夫を行いながら、処遇の改善を進める。
- ◆ アイデア募集だけではなく、社員のモチベーションを高めるための仕組みづくりについて検討を行う。

以 上